

令和7年度千葉県国際交流推進事業（台湾派遣）報告書

台湾での体験と外国語使用の現状について

千葉県立千葉商業高等学校 教諭 安部尚子

1. はじめに

本校は、千葉県の公立高校として初めて「アントレプレナーコース」を設置した。令和7年度より2年生がコース選択を行うこととなり、それに先立ち、1年次には地域活性化を目的とした観光ビジネスモデルの考案をする探究学習を実施している。今回の台湾派遣は「観光ビジネス」をテーマとして実施されたものであり、台湾で観光事業を立ち上げた日本企業の訪問も含まれていた。私は前職において観光業に携わっていた経験を有すること、また外国語科教諭として台湾の外国語教育政策に強い関心を抱いていたことから、本派遣への参加を希望した。

2. 台湾の外国語教育事情

台湾では、日本に先行して2001年より小学校段階での英語教育が必修化されている。これは、グローバル化が急速に進展する中で、国際社会における競争力を確保するための国家的戦略の一環である。台湾は少子化が日本以上の速度で進行しており、人口減少が国家の存続に直結する課題となっている。そのため、教育・科学・文化費が国家予算の19%以上を占めるなど、教育への投資が極めて手厚い。これは日本の文教科学相当予算（約5%）と比較しても明らかに高い割合であり、台湾が教育を国家の基盤と位置づけていることがうかがえる。

特に英語教育は、国際競争力の強化、海外市場との接続、外国企業の誘致など、経済発展と直結する政策として重視されている。台湾政府は「2030年バイリンガル国家政策」を掲げ、学校教育のみならず、政府機関、公共サービス、観光産業、ビジネス、マスメディアなど、社会全体で英語環境の整備を進めている。中等教育段階ではCLIL（内容言語統合型学習）の導入が進み、英語で他教科を学ぶ授業が増加している。大学ではEMI（English-Medium Instruction）を推進し、英語のみで実施される授業の割合が年々増加している。

さらに、公務員や教員に対しても英語能力向上研修が義務化されつつあり、社会全体で英語運用能力の底上げが図られている。TOEICの調査によれば、台湾企業における英語使用率は、「海外関連部署のみ」を含めると100%とされ、ビジネスの現場では英語が不可欠なスキルとなっている。都市部では幼児教育段階からオールイングリッシュの環境を導入する園も増加しており、タクシー運転手、店舗従業員、官公庁職員など、多くの市民が実用的な英語能力を備えている。こうした取り組みの成果として、台湾の一人当

たり GDP は年々増加し、2024 年以降は日本を上回っている。教育投資と語学力向上が経済成長に寄与しうることを示す一例であり、外国語教育の重要性を再認識させられる。

3. 台北市・私立育達高級中学校訪問

育達高級中学校（YUDA）は台北市中心部に位置し、観光ビジネス科、ファッションデザイン科、栄養管理・調理科、芸能科があり、日本の専門学校に類似した実践的な学科構成を有している。訪問時には、タピオカ製作実習への参加、パン製作の見学と試食、ハンドタオルを用いた作品制作体験など、多様な実習を通じて温かい歓迎を受けた。



タピオカ制作実習は、我が校の一般教室の3倍ほどの広さを持つ調理室で行われ、教員はマイクを用いて指導していた。パン製作も企業用オーブンが複数設置された実習室で行われており、職業教育の水準の高さを実感した。YUDA では専門学校に進学し、その後、調理師、栄養士、観光ガイドなどの国家試験を受験して就職する卒業生が多い。



観光ビジネス科では、1～3 年次を通じて英語が必修であり、1 年次に日本語、2 年次に韓国語が必修科目として設定されている。これは、台湾を訪れる外国人観光客の国籍別割合に基づいた合理的なカリキュラムであり、観光産業のニーズに即した教育が行われていることを示している。実際、訪問時には日本語で交流を試みる生徒も多く、英語が得意でないと述べる生徒もいたが、概して積極的に英語でコミュニケーションを図る姿が見られた。また、案内担当教員のみならず、調理科教員の英語運用能力も高く、外国語教育の充実が学校全体に浸透していることが確認できた。



一方、今回引率した千葉県の15名の生徒のうち、英語が得意な生徒は2名程度であり、時折スマートフォンでの翻訳アプリを利用する場面も見られた。しかし、多くの生徒は単語を組み合わせながら自らコミュニケーションを図って



おり、「自分で伝えたい」という強い意欲が感じられた。なお、外国語の授業見学を希望していたが、当日は該当授業がなく、見学が叶わなかった点は残念であった。

4. 地域創生を目指す観光ビジネス

3日目に訪問した金山漫遊は、観光農場や近隣漁業と連携し、教育的価値を有する体験型ツアーや、SDGsに寄与するグリーンツアーを提供している。漁師体験、海岸清掃、地元農産物を用いた調理体験などが主な内容であり、今回の訪問では地元特産の芋を竈で焼く体験を行った。



金山地区はかつて温泉観光地として賑わったが、現在は過疎化が進み、消滅可能性自治体とされている。金山漫遊は、観光を通じた雇用創出と若者の呼び戻しを目的として開始された事業であり、台湾国内のみならず、日本からの学生ツアーも積極的に受け入れている。観光を軸とした地域再生の取り組みは、千葉県を含む日本の地方自治体が抱える課題とも共通しており、非常に示唆に富む事例である。



訪問後半では、生徒たちが「観光客増加のための企画」を立案し発表する活動が行われた。地域の人口構造、産業、特色を踏まえた企画立案は難易度が高いものの、創造性を発揮できる学習機会であり、実際に若者の提案が採用される例もあるという。我が校のアントレプレナー教育にも通じるところがあり、地域資源を再評価し、観光を通じて地域の価値を再構築する課題は、生徒たちにとって大きな学びとなった。

5. 観光ビジネスにおける外国語

日本人観光客を誘致する上で日本語運用能力は不可欠である。金山漫遊でガイドを務めたリオ氏も、流暢な日本語で分かりやすい説明を行っていた。台湾を訪れる外国人観光客の国籍別割合では、日本が1位、韓国が2位となっており、観光ビジネス科で日本語・韓国語を必修としている理由が明確に理解できる。

また、台湾人が選択する海外旅行先でも日本が1位であり、地理的近接性、文化的親和性、円安の影響などが背景にあると考えられる。今後もこの傾向は継続すると予想され、台湾と日本の観光交流はますます活発化することが見込まれる。

日本が観光立国を目指すのであれば、英語のみならず、中国語・韓国語等の多言語教育の充実が求められる。千葉県内で中国語を選択できる公立高校は約 10 校、韓国語は 7 校にとどまるが、今後の拡充が期待される。

6. 今後の台湾研修への要望

訪問校での滞在時間をより長く確保し、生徒間交流の機会を十分に設けることを要望する。国際交流推進の観点では、育達高級中学校での交流は研修の中心的要素であったが、交流が深まり始めた段階で移動せざるを得ない日程であった。生徒からも「もっと長く滞在して、友好を深めたかった」との声が多く聞かれた。

また、生徒たちがとても楽しみにしていた士林夜市の滞在時間が実質 30 分程度であったため、ホテル近隣の小規模夜市への変更など、日程の再検討が望ましいと考える。観光地での自由行動は、生徒が自ら外国語を使用し、異文化に触れる貴重な機会である。安全面に配慮しながら十分な時間を確保することが望ましい。

7. 終わりに

台北市郊外の水族館 X-Park を立ち上げた竹中氏は、日本人に不足している能力として「語学力」と「自己の意見を的確に伝える力」を挙げていた。今回の千葉県の生徒たちは、語学力という点では不足していたが、コミュニケーションを積極的に取る姿勢は高く評価できる。AI による自動翻訳機が高度化した現代においても、「自らの言葉で伝える」経験は代替し得ない価値を持つ。英語の発音や文法に自信がなくても、または中国語のように馴染みのない言語であっても、伝えたいという熱意があれば十分に伝わることを実感できたと思う。

国家間の良好な関係構築には、人と人との交流が最も重要である。私は派遣前のオンラインミーティングで、生徒 15 名に中国語の挨拶や基本表現を習得する課題を課したが、現地ではホテル、レストラン、バス、店舗等で積極的に台湾の人々と交流する姿が見られた。挨拶を交わすことで双方に笑顔が生まれ、帰国時には「もっと中国語を学びたい」と述べる生徒が数名いた。私自身もそうであったように、外国へ行き、自らの語学力不足を痛感することが、外国語学習のモチベーションを高める最も効果的な方法であるのかもしれない。

今回の研修は、生徒たちにとって国際交流の本質を体験する貴重な機会となり、今後の学習意欲や進路選択にも大きな影響を与えるものであった。今後もこのような国際交流事業により、多くの千葉県の生徒たちを台湾やその他の国々へ派遣すること、または逆に受け入れ側となることで、各国との友好を深める機会になることを切に願う。

【参考データ】

台湾交通部觀光署觀光統計資料庫 來臺資料 Inbound visitors(n.d.)

<https://stat.taiwan.net.tw/> (参照 2026-01-07)

陳千慧 bizlab.sg 【統計データで解説！】台湾の教育業界の最新トレンド・2024-04-03

<https://bizlab.sg/magazine/blog/2023/06/02/taiwan-data-education/> (参照 2026-01-07)

TAIWAN LABO 台湾の英語事情とは？2030年「バイリンガル国家計画」の背景と現状
2025-08-01

https://taiwanlabo.com/lifestyle/2025_08_01_taiwan_biligual_education_english_second_language/ (参照 2026-01-07)

Global Note 世界の一人当たり名目 GDP 国別ランキング・推移 2025-10-21

<https://www.globalnote.jp/post-1339.html> (参照 2026-01-07)

TOEIC 台湾 2021年臺灣中大型企業及求職者外語職能管理調查報告(n.d.)

<https://www.toEIC.com.tw/info/reports/company-survey/2021/> (参照 2026-01-08)

岩口敬子(編) 中央廣播電臺 台湾の2024年度予算案、歳入歳出ともに過去最大 2023-

08-24 <https://www.rti.org.tw/jp/news?uid=3&pid=57906> (参照 2026-01-08)

国税庁 [国の財政]歳出～文教及び科学振興費～|税の学習コーナー (n.d.)

<https://www.nta.go.jp/taxes/kids/hatten/page06.htm> (参照 2026-01-10)